

# 平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	女性の再チャレンジ支援プログラム		
事業名	eラーニングシステムを併用したオフィスソフトならびにデザインソフトに関するスキルアップ講座		
法人名	学校法人札幌テクノパーク専門学校		
学校名	札幌テクノパーク専門学校		
代表者	理事長 河村有泰	担当者 連絡先	北名 勝正
<p>1. 事業の概要</p> <p>就労意欲はあるが育児や子育てのために、就職のためのスキルアップ講座などの受講ができない方々に向けて、在宅でのeラーニング学習と託児施設を併設したスクーリングの併用したスキルアップ講座を実施。</p> <p>2. 事業の評価に関する項目</p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業は、基本講座をeラーニングによる在宅受講としたため、育児や子育てをする方々も多数受講する事ができ、高い評価を得る事ができた。eラーニングの中心となる動画コンテンツも单元ごとに5～13分程度と短くした事が受講しやすさに繋がり、加えて何度でも繰り返し見る事ができた点も受講者から好評だった。特に、受講者の都合に合わせて24時間いつでも受講できる点が高評価を得たほか、受講者専用サイト(SNS)を活用し受講者からの質問や操作方法の解説を個別に行なうサポート体制を構築した事は、これまでに例のないものとして特筆すべき点と言える。これらの事からも、総合的に判断し事業の目的は達成できたといえる。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>女性の再チャレンジ支援に向けたスキルアップ講座は高評価をえて終了したが、受講者から具体的に再就職が決まったとの報告は受けていない。しかしながら、「分かりやすかった」「役に立った」「就職に役立つと思う」「在宅での仕事に繋がると思う」などの意見を得ており、スキルアップ講座としては概ね成功した者と言える。また、基本講座で使用した動画コンテンツとSNSを組み合わせたeラーニングシステムは、今後、小・中規模な学習塾や文化教室などで導入されるeラーニングシステムのモデルシーズとなる事が予見できる。</p> <p>③今後の活用</p> <p>動画コンテンツとSNSを組み合わせたeラーニングは、低コストながら効率の良い学習効果をあげる事のできるシステムである事を再認識できたため、これらを活用した家庭学習環境の提供、コミュニケーション環境の提供などによる再チャレンジ支援が可能と思われる。また、動画コンテンツはレンタルではなく制作し著作権を確保した上で活用する方が望ましいと考える。</p>			

#### ④次年度以降における課題・展開

一部(特に40代以降)の方々がSNSの概念や操作方法を理解できずに受講に至らなかった反省点を考慮して対策を講じる必要がある。また、eラーニングの仕組みを改良し、幅広いジャンルで再チャレンジ支援に活用する事が可能であろう。

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①履修証明書等

eラーニングによる受講(60時間)とスクーリング(9時間)を修了した受講者に、本講座独自の「修了証」を発行した。また、スクーリングに参加できなかった受講者は、課題を提出する事で「みなし出席」とした。修了証の発行者数は「ビジネスソフトコース」15名、「デザインソフトコース」11名だった。年齢分布は次の通り。20代:0名 30代:11名 40代:11名 50代:4名

#### ②カリキュラムの内容

本講座では、「デザインソフトコース」と「ビジネスソフトコース」の2コースを実施した。デザインソフトコースでは、デザイン業界で世界シェアNo.1を誇るグラフィックソフト「イラストレーター」と画像編集ソフト「フォトショップ」の習得を目指した。ビジネスソフトコースでは、事務系ソフトシェアNo.1のワープロソフト「word」と表計算ソフト「Excel」の習得を目指した。

#### ③講座の実施

eラーニングの基本システムとしてSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を用い、実際のスキルアップ講座は動画コンテンツを用いた。1つの動画コンテンツは5～13分程度とし、講師が使用方法を解説しながら操作するパソコン画面をそのまま録画した動画コンテンツを各ソフト36単元分用意した。

#### ④支援対象者(受講者)の状況

受講者の属性は下記の通りだった。

○デザインソフトコース

20代:4名 30代:19名 40代:13名 50代:8名

○ビジネスソフトコース

20代:5名 30代:12名 40代:18名 50代:5名

○合計

20代:10.71% 30代:36.90% 40代:36.90% 50代:15.48%

30代、40代の受講者が中心となる事は想定できたが、50代が15%を越えた点や、20代が10%程度に抑えられた点は予想外であった。